



『ひとみキラキラ 本にドキドキ』

これは2022年 第64回「こどもの読書週間」の標語です。

「子どもたちにもっと本を!」との願いから、「こども読書週間」は1959年(昭和34年)にはじまりました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間(5月1日~14日)でしたが、子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」である2000年より現在の4月23日(世界本の日・子ども読書の日)~5月12日に期間を延長しました。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが子どもたちにとってどんなに大切なことか、子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「こども読書週間」です。

福岡市では、毎月23日を「福岡市子どもと本の日」としています。平成13年12月に公布された「子どもの読書活動の推進に関する法律」により、4月23日が「子ども読書の日」と定められたことに基づいています。

また、国が4月23日を「子ども読書の日」としたのは、イギリスの文豪シェイクスピアとスペインの文豪セルバンテスの命日である日をユネスコが「世界図書・著作権デー」と宣言したことなどにちなんだものだとされています。

さらに、4月30日は図書館記念日です。昭和25年4月30日に、図書館は無料のサービスである、という当時としては画期的な理念の「図書館法」が公布されたことを記念して設けられました。

本年度の標語のように、すべての子どもたちのひとみがキラキラし、本にドキドキする20日間になってほしいと思います。

「新1年生へのおすすめの本リスト」を配布しました

教育委員会では、小学校・中学校に入学する子どもたちを対象に、「学校の先生たちが選んだおすすめ本リスト」を作成し、本年度入学した子どもたちに配布しています。

このおすすめ本は小学校や中学校の各教科の研究委員会や研究会に依頼し、推薦していただきました。今年度で10回目になりますが、学校図書館の特設展示コーナーでの紹介や新規購入本の参考にご活用ください。また、各家庭での本選びのときの参考にもしていただきたいと思います。

あなたへのおすすめのほんをしょうかいします!

ここに しょうかいしているのは しょうがっこうの せんせいたちが えらんだ おすすめの ほんです。
おうちのひとや おともだちと たのしくほんを よみましょう!

<p>こくご をえらんだあなたには...</p> <p>「おじさんのかさ」 佐野 洋子(作・絵) 講談社</p> <p>ふんたごにチェックをいれよう</p>	<p>さんすう をえらんだあなたには...</p> <p>「△□のくいの おうさま!」 こすぎ さなえ(作) たちもと みづこ(絵) PAF研究所</p> <p>ふんたごにチェックをいれよう</p>
<p>おんがく をえらんだあなたには...</p> <p>「クマと熊のピアノ」 チャールズ・リッチフィールド(作) 保 方敏(訳) ポプラ社</p> <p>ふんたごにチェックをいれよう</p>	<p>ずがこうさく をえらんだあなたには...</p> <p>「ももいろのきりん」 中川 李枝子(作) 中川 京弥(絵) 福音館書店</p> <p>ふんたごにチェックをいれよう</p>
<p>かてい をえらんだあなたには...</p> <p>「おいしいおと」 三郎 真由子(文) かくしま あきえ(絵) 福音館書店</p> <p>ふんたごにチェックをいれよう</p>	<p>たいいく をえらんだあなたには...</p> <p>「ペンギんたいそう」 齊藤 義(作) 福音館書店</p> <p>ふんたごにチェックをいれよう</p>
<p>せいかつ(しゃがい) をえらんだあなたには...</p> <p>「みんなのいちにち」 たけさき まひろ(作) アリス書</p> <p>ふんたごにチェックをいれよう</p>	<p>せいかつ(りか) をえらんだあなたには...</p> <p>「なんだこれは!」 橋山 寛多(作・絵) 偕成社</p> <p>ふんたごにチェックをいれよう</p>

中学校の先生たちが選んだ!

あなたへのおすすめの本を紹介します!

<p>国語 が好きなあなたに...</p> <p>「お探し物は 図書室まで」 青山 美智子(著) ポプラ社</p>	<p>社会 が好きなあなたに...</p> <p>「民主主義」 10歳から読める・わかる いちばんやさしい 民主主義 五野井 泰夫(編著) 東京書店</p>
<p>数学 が好きなあなたに...</p> <p>「中学校3年間の 数学が1冊で しっかりわかる本 改訂版」 小林 新也(著) かんき出版</p>	<p>理科 が好きなあなたに...</p> <p>「アライブ 生きている体 ポップアップ人体図鑑」 イアン・スマイス(著) アニタ・カネリ(文) 須田 郁三(訳) 大日本絵画</p>
<p>音楽 が好きなあなたに...</p> <p>「くちびるに歌を」 中田 水一(著) 小学館</p>	<p>美術 が好きなあなたに...</p> <p>「13歳からの アート思考」 天永 幸希(著) ダイアモンド社</p>
<p>体育 が好きなあなたに...</p> <p>「強くなりた いきみへ!」 エディー・ジョーンズ(著) 講談社</p>	<p>技術 が好きなあなたに...</p> <p>「ものづくりに生きる ものづくりに生きる」 小関 智弘(著) 朝倉書店</p>
<p>家庭 が好きなあなたに...</p> <p>「ワンでしょ!? マジです!! たべものびっくり事典」 こすぎ ゆう(文) えのき のこ(イラスト) ポプラ社</p>	<p>英語 が好きなあなたに...</p> <p>「英語が 好きになる」 学校では教えてくれない 大切なこと20 英語が好きになる 藤 梨之(マンガ・イラスト) 旺文社</p>

題名や表紙を見ただけで、子どもたちに読んでほしいと思う本ばかりです。
ぜひ、子どもたちに紹介してください。



本の帯を使った4月の掲示・展示

「春を楽しむ本」をたくさん紹介しましょう。
面だし（表紙を見せる）をして展示紹介すると、図書館が春いっぱいになりますね。



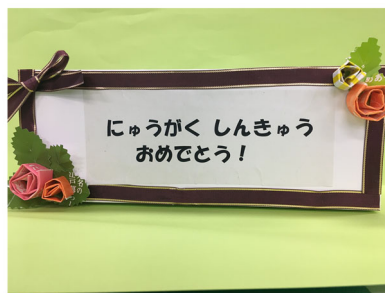
「葉っぱのあかちゃん」
「野の花えほん」
「よもぎだんご」

「だってはるだもん」
「たんぽぽ」
「草花遊び図鑑」

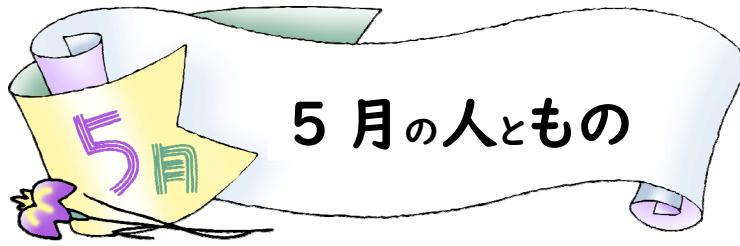
こんな本はいかがですか？



帯は、紙質もしっかりとしているので、しおり作りに最適です！



入学、進級のお祝い
メッセージを図書館
からも伝えましょう！



5月の人とももの

鉛筆

5.2 えんぴつ記念日

今ではシャープペンが重宝されていますが、1887年、日本で初めて三菱鉛筆の創始者である眞埜仁六が鉛筆の工場生産に成功しました。勉強に筆を使っていたそれまでの子どもたちにとって、鉛筆は画期的なものでした。

菖蒲

5.5 端午の節句

刀に似ていること、強い香りを持つことから、男子の縁起の良い植物として、端午の節句に用いられます。ハナショウブと似ていますが、それはアヤメ科です。実は、菖蒲はサトイモ科です。葉は菖蒲湯に使います。

サトウハチロー (1903.5.23~1973.11.13)

詩人、作詞家、作家「小さい秋見つけた」「かわいいかくれんぼ」「うれしいひなまつり」など童謡や歌謡曲、校歌、CM など幅広い作品を発表。約 20,000 の詩のうち、3,000 が母を歌っています。

さくらももこ (1965.5.8~2018.8.15)

漫画「ちびまる子ちゃん」の作者です。「ちびまる子ちゃん」は自分の少女時代をモデルとしており、多くの人の共感を呼んでいます。エッセイスト、作詞家、脚本家としても活躍しました。

三木卓 (1935.5.13~)

小説家、詩人、翻訳家、芥川賞作家アーノルド・ローベルシリーズ「ふたりはいっしょ」「ふたりはともだち」はロングセラーとなっています。「えいっ」「おおやさんはねこ」など子どもたちに親しまれている本が多数あります。

小林一茶 (1763.5.5~1827.11.19)

「大根引き大根で道を教えけり」「やせ蛙まけるな一茶これにあり」一茶の作った句は約 22,000 句。俳文俳句集「おらが春」は、一茶 57 歳の 1 年間の随想をまとめたもので、没後 25 年に刊行されました。

【あとがき】

令和 4 年度が始まりました。4 月は子どもたちにとって新しい出会いがたくさんあり、その一つ一つにワクワクドキドキすることでしょう。図書館でも新しい本との出会いにそんな思いをもってほしいと思います。本年度も毎月 23 日「福岡市子どもと本の日通信」を発行します。さまざまな情報から子ども読書活動の推進になればと思っています。

よろしく願います。

(足立)



図書館員のひみつの本棚 192回

今月は、ほのぼのとした味わいの禅画と、それをモチーフにしたグッズが人気の「博多の仙厓さん」について知ることができる、ジュニア版美術入門書を紹介します。

『国芳と仙厓 浮世絵と禅画-楽しい日本の絵 ジュニア版もっと知りたい世界の美術8』
金子信久／監修 東京美術 2021年 ¥3000（税別）

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★☆ 小高学年★★★ 中学生★★★
高校★★★ 一般★★★
(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

「ジュニア版もっと知りたい世界の美術」は、各巻ごとに2人の画家を取り上げた美術書のシリーズです。この巻では江戸時代の浮世絵師・歌川国芳と、たくさんの水墨画を描いた禅宗の僧・仙厓義梵を取り上げ、個性の違いを感じられるよう彼らの生涯や代表作を紹介しています。仙厓は江戸時代中期に活躍した禅僧で、博多の聖福寺の住職を長く務めました。「博多の仙厓さん」と呼ばれ慕われた仙厓は、博多の人々との交流の中で、たくさんの禅画を生み出しました。福岡市美術館は仙厓のコレクションを所蔵しており、そのユーモラスな絵を、展覧会やミュージアムショップのグッズで見たことがある人も多いと思います。本書では、国芳と仙厓の絵を鑑賞したり、見比べたりするとともに、「クイズに挑戦するコーナー」や「自由研究などに役立つ工作コーナー」等さまざまなコーナーを体験することによって、多くの人を楽しませた国芳と仙厓の絵に対して、もっと理解と興味を深めることができるようになっています。

<子どもに手渡す時のポイント>

「ジュニア版もっと知りたい世界の美術」シリーズは、現在8巻まで刊行中で、他に「北斎と広重」「ゴッホとゴーガン」等があります。昨年度は福岡市美術館でゴッホの展覧会があったのですが、4月からは九州国立博物館で葛飾北斎の展覧会が予定されています。展覧会に行く前に読むと、美術鑑賞が何倍も楽しめるシリーズです。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発行：福岡市教育委員会
総合図書館 図書サービス課
電話：092-852-0639
FAX：092-852-0801